

報告2 視察 文教児童委員会の委員として延岡市、日向市に行ってきました。

7月16日は延岡市にて「土曜授業」

「土曜授業」は子供の授業の過密状態解消などを目的に、平日の授業時間の一部を土曜日に移して確保する平日のゆとりを、児童生徒の自主活動や放課後の教員研修などに充てるというものです。

間中の想い 地元の祭り・行事への参加などの体験授業、経験学習を土曜授業として行う場合、その体験・経験を通して得た学びを、他で応用できるようにすることが必要！
 どうしたら成果がでるかを探って行きます。



7月17日は日向市にて「キャリア教育支援センター」

日向市の「キャリア教育支援センター」は地元の商工会議所が主導権を發揮し、対象を小中学校に限らず高校まで拡充しているのが特色です。

間中の想い 100名を超えるあらゆる企業・職種の方々から「よのなか先生」として子供たちに夢や厳しさも語り伝える仕組みを作られたのも、キャリア教育を推進する大人たちの本気度が高いからだと思えます。板橋区においても学ぶべき点の多い視察でした。



報告3 消防団活動 消防団員として大学生にも消防団への参加を呼びかけています。

全国的に消防団員は減少傾向にあります。昭和40年頃に130万人以上いた団員が現在は86万人余り、特に若い団員の減少率が大変大きいのが実情です。いつ来るかも知れない震災等に備えるため、地域の防災力向上がより重要になっています。

間中の想い 「特別区学生消防団活動認証制度」は就職の際に自己PRとして使うことが出来るため有利な認証制度です。企業に対しては制度の主旨を理解してもらい採用の際に考慮してもらえよう益々の働きかけをして、双方の認知度を高めていかなければなりません。

特別区学生消防団認証制度

平成27年4月1日から、学生が消防団として社会貢献に努めたことを評価し、就職活動を支援する制度。大学・大学院・専修・各種学校生、18才以上が対象。

報告4 ボーイスカウト活動 より良い社会の実現のため、後輩の育成を続けます。

7月28日～8月8日の約2週間、4年に1度開かれるボーイスカウト最大のキャンプ大会、世界スカウトジャンボリーが日本で開催されました。世界162の国と地域から約3万4千人のスカウトが山口きらら浜に集い、小さな「世界」が出来上がります。スカウトはキャンプをしながら世界の仲間とともに体験を共有します。

これまでスカウトとして、また前回のスウェーデン開催時には日本派遣隊指導者として参加してきたジャンボリーですが、今回は閉会式で挨拶された下村文科大臣に同行させて頂き参加してきました。より良い社会を目指すボーイスカウト運動には今後も関わり続けます。



間中の想い 勇気・忍耐・行動力・協調性、ボーイスカウトの経験は成長期の少年に計り知れない良い影響をもたらしてくれます。

間中りんぺい (まなか倫平) プロフィール

- 東京都板橋区生まれ
- ひいらぎ保育園・志村第六小学校・志村第三中学校卒
- 平成10年 板橋高等学校卒業
- 平成13年 株式会社伊藤園入社
- 平成18年 株式会社伊藤園 留学の為 退社
- 平成20年 28歳で慶応義塾大学入学
- 平成24年 慶応義塾大学卒業 (卒業学位記授与代表生)
- 平成25年 衆議院議員 秘書
- 平成27年4月 板橋区議会選挙初当選

【主な活動経歴】

- 平成11年 ニュージランド留学
- 平成21年 北京大学短期留学
- 平成22年 福沢諭吉記念文明塾 (第4期生)
- ボーイスカウト活動は7歳より継続28年目 (富士スカウト)
- 現在ローパー隊隊長
- 平成13年よりスリランカ内戦地域、及び震災地域での支援活動

あなたの意見、街のこと、住みたい街の未来像、聴かせてください



間中りんぺい事務所

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢2-21-1-201 Tel/Fax:03-6789-7598 E-mail:rinpeimanaka@gmail.com

間中りんぺい 活動報告

本年4月26日の板橋区議会選挙にて多くの区民の皆様からのご付託により、初めての挑戦ながら第四位の票をいただいた間中りんぺいです。当選以来、毎日が勉強、勉強…。板橋区を、全国を駆け抜けています。区民の皆様のこうしたい、あおしたいを、ひとつひとつ確かめながら、理想のいたばしを実現するべく奮闘しています。そんな中で、活動報告をお届けできることは、万感の思いです。ぜひとも、ご精読いただき、間中りんぺいに叱咤激励頂ければ幸いです。

自民党 板橋区議会議員 間中りんぺい

2015年
8月号

報告1 第二回区議会定例会 一般質問

6月5日の本会議初日一般質問において、約35分にわたり区長及び教育長に質問を行いました。

教育

間中の想い 思考することを学ぶ。時代変化に沿った教育内容で、個として強く生きていける「教育」を間中りんぺいはめざしています。

問 新しい時代の実社会に生きる能力を育む必要があるとの観点からアクティブラーニングが実施されています。この中で、子供たちが自身を表現する、相手に伝えるための資質・能力を育むことに、重点をおいた教育を進めるべきと考えています。どの様に進めていこうとするのかを、お伺いいたします。

答 教育支援センターでの研究、研修を充実して、教員の指導力の向上、授業改善を一層推進し、言語活動の促進を図る中で、人前で表現する機会を多く設定するほか、地域活動やおやじの会などと連携した体験活動など、小学校の段階から子供たちの思考力、判断力、表現力を育成していきます。

アクティブラーニング
生徒・学生などがアクティブ（能動的に）学習することによって、認知的、倫理的、社会的能力、知識、経験を蓄めた汎用的能力の育成を図るもの。

環境

間中の想い お父さんお母さんが働いていても、放課後安心して子どもたちが走りまわれる街を間中りんぺいはめざしています。

問 あいキッズの全校展開によって、子供たちが放課後を過ごす場所が学校となった場合、これまで地域の中で子供たちを育ててきた空き地や公園の代替場所として、子供たちの成長の機会をあいキッズの制度の中でどのように担っていくとお考えでしょうか？

答 児童が自発的に活動を選択できる場面や、児童の発案による活動を取り入れるなど、児童の自主性、創造性の向上を目指し、遊びや文化、スポーツといった様々な体験活動により、公園の活動と比べても充実した内容の、児童が成長する機会を提供して参ります。

あいキッズ制度
慣れ親しんだ、学校の校庭、体育館、図書館などを使って、放課後子ども教室と放課後児童健全育成事業を一体的に運営する放課後対策事業。

問 以前に比べ、区内から子供たちが自由に活動できる空き地が減っております。自由に活動のできる空き地やスペースを持つ公園を、子供たちの成長機会確保のためにも増やしていくべきだと考えます。

答 公園を利用することで、同じ公園で過ごす他の利用者に気を配り、近隣にお住まいの方に迷惑をかけないように遊ぶなど、社会の中で必要とされるルールを学ぶ機会にもなることから、今後も新しい公園の整備に努めてまいりたいと考えています。

区内の公園数
● 都市公園総数338
23区4位
● 区民ひとりあたりの都市公園面積3.52㎡
23区9位
(平成24年4月1日現在)

観光

聞中の思い

いたばしの活力アップ。魅力を掘り起こし、新たな魅力を創ることを間中りんべいはめざしています。



問 板橋区には、文化的な観光資源が数多く存在しますが、板橋ならではの特性や比較優位を有する資源は少ないと言わざるを得ません。イベント中心の観光振興とは別に、常に人で賑わう、そんな場所を創造してはゆけないでしょうか？

答 区の魅力を戦略的に区内外に発信することによって、訪れてみたい、住んでみたいと感じてもらえる都市を目指しております。そのためには、産業観光を含め、観光資源を発掘し、ブランド力の向上を進め、一人でも多くの方々に訪ねていただきたいと考えています。

板橋区の産業観光資源
板橋区が誇る、精密機器、光学機器、金属加工、印刷等の産業の他、工芸工房、大手企業部店、浄水場、清掃工場等豊富な資源を有する。

問 観光の対象が、区内・区外、海外からの旅行者、また研修・研究などの方、買物や食事の方などあまりに広い範囲。つまりは誰でも想定しているように思え、ぼやけてしまっている印象を受けます。観光の対象についてもお示しいただければと思います。

答 現状、観光政策は多種多様にわたっており、区民・区外の方々に板橋区の魅力を発信しています。一方、2020年のオリンピック、パラリンピックでは、多くの外国人が東京に訪れます。今後はこの機会を逃すことなく、外国人の方に重点を置いて、板橋区の良さを情報発信していきたいと考えています。

東京オリンピックと板橋区
板橋区の変なる活性化につなげるため2020年オリンピック・パラリンピック推進本部を設置。選手育成にも地域型「アスナビ」を展開。

問 観光政策について、その評価及び反省、区民へのフィードバックなどは、どのような扱いになっているのでしょうか？例えば、区政施行70周年を機に制定された「板橋十景」に関して、その制定後の評価反省など、どの様に行われたのでしょうか？

答 板橋十景のひとつ板橋花火大会は、打ち上げ発射、有料指定席購入者数を事業指標しようとしています。質を落とさずに玉数を増加、プログラムの工夫などで有料指定席購入者数を増進に寄与しています。今後も、板橋十景は、歴史と文化に根ざした板橋の魅力を区内外に発信していく役割を担っていくと考えています。

板橋十景
赤羽池公園周辺、板橋(石神井川にかかる橋)いたばし花火大会、志村一里塚、石神井川の桜並木、松月院、田遊び(湯丸・赤塚)、高島平団地とけやき並木、東京大仏、南無阿彌のしだれ桜

振興

聞中の思い

愛着の持てる、散歩したくなる景観づくり、人々の集まるにぎわいづくりを間中りんべいはめざしています。



問 大変きれいに整備された小豆沢水上バス乗り場ですが、運行期間や回数、料金の理由から、地元の方でもほとんど利用していないのが実情です。この小豆沢水上バス乗り場の活用について、区としてはどのような案が考えられるのかを伺います。

答 小豆沢水上バス乗り場周辺地域につきましては、小豆沢体育館の改築を契機と小豆沢公園内スポーツ施設、春の桜や二輪車の花々、小豆沢神社とイチョウ並木など、エリア内に持つ環境とての魅力やポテンシャルを活かしたにぎわいづくりを今後、研究課題としたいと考えています。

小豆沢水上バス乗場
JR赤羽駅歩15分、都立三田原志村坂上駅歩15分、新河岸川・新河岸大橋近くの乗り場。板橋区海公園、両国へ船の旅が楽しめる。ツアーもある。

問 区内における広い範囲で水辺の活用が可能な地域は数多く存在します。従来のように緑や自然を活かそうとするやり方に加えて、板橋のこれからの観光のために、一歩踏み出した魅力作りを始める必要があるのではないのでしょうか。

答 板橋区では、これまで荒川河川敷を使った板橋花火大会や、板橋cityマラソンなど、区民の皆様や企業などととも協働しながら、水辺を活用したにぎわいづくりに取り組んでまいりました。今後も、区民の皆様、企業など力を合わせて、水辺のにぎわいづくりに取り組んでいきたいと考えています。

板橋区の水辺
荒川、新河岸川、石神井川等の河川の他に赤羽池公園見次公園、船漕水辺公園、水事公園、氷川釣り場公園などがあり、賑わっている。

問 小豆沢体育館温水プールは、28年度中に工事に着手し、30年に開館予定となっています。今後のスケジュールをお聞かせください。また、同施設は周囲の景観との一体化、建築物との調和は利用者だけでなく周辺住民にとっても重要ですが、設計コンセプトは？

答 スケジュールについては、28年度中に着工できれば、30年度中に開館予定です。設計コンセプトにつきましては、街並みや景観などに配慮し、地域自然と調和した施設となっています。また、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインを確保し、災害時の体育館の機能を補完する施設となります。

小豆沢体育館温水プール
小豆沢3丁目1番1号にある小豆沢体育館の施設で現在休館中。体育館には室内競技場・トレーニングルーム・多目的室・会議室などがある。志村坂上駅から徒歩5分。

福祉

聞中の思い

みんなが、心で結びつくやさしい街、いたばしを間中りんべいはめざしています。



問 今まで以上に在宅医療・介護に対するニーズの高まりの声が大きくなる中で、「病院完結型」から脱却し、地域で支える「地域完結型」の地域包括ケアシステムを区として構築していくために、どのような地域づくりを進めていこうとお考えですか？

答 新しい総合事業における介護予防・生活支援サービス事業の適所型サービスには、NPOなど、住民主体で運営するミニデイなどが想定されています。現行のコミュニティカフェ等を活用することも有効な方策の一つであると考えています。

ミニデイ
介護保険法の適用を受けない範囲で、地域のボランティアが運営するサービス。レクリエーションや体操、会食などで健全な心身機能の維持を図る。

問 「認知症カフェ」に対する支援も開始されていますが、コミュニティカフェの活用に関して有効性をいかにお考えでしょうか？また、地域に増える空き店舗や空き家などの活用が有効と考えますが、活用に対する支援について、見解を伺います。

答 認知症カフェの立ち上げや運営に対する支援は、東京都の補助金を活用し平成26年度から実施しています。既存のコミュニティカフェでの運営の他、空き店舗、空き家などを活用した立ち上げについても、限度額を設定し、補助の対象としています。本議会、NPO、ボランティアを支援していきたいと考えています。

認知症カフェ
認知症の人や家族、介護者の休息の場。認知症の当事者と一般市民が語り合う場として、家族会、社会福祉法人、NPO等が運営している。

問 これからの介護保険制度を持続可能なものにするためには、高齢者の生きがい・健労や支えあいの担い手としての社会参加を積極的に推進していくべきだと考えます。例えば、70歳になった方を対象とした、「第2成人式」など、同年代同士が月に会し、元気を作り上げていくような取り組みが有効だと考えますがいかがでしょうか？

答 今後は、企業総合支援や世代間交流の推進など新たな分野の取り組みを通じて、さらなる高齢者のニーズに対応した事業を広く展開して行く予定であります。ご提案の第2の成人式のような取り組みにつきましては、その後の展開を含めた手法および効果について検討していきたいと考えています。

板橋区の就労支援
はつらつシニアいたばし(区社会福祉協議会運営の無料職業紹介所)、しごとの相談(区)、板橋区シルバー人材センターなどで展開。

広報

聞中の思い

区民の声を第一に、満足度ナンバーワンのすみたい街づくりを間中りんべいはめざしています。



問 板橋区においては、区長懇話会や区長への手紙など、地域要望をとらえるための制度がいくつかありますが、そのような限られた手段以外でより広い区民からの地域要望をどのようにして捉えているのか、またその要望をいかにして迅速に区政に反映させているのか、その方策について伺います。

答 区民の苦情等を受けた際に、事実関係の把握や、必要に応じて現場の状況確認等を行い、迅速に対応するよう努めています。区長への手紙につきましては、手紙を受付した日から2週間以内に回答すると規定をしています。住民参加型の仕組みについては、先道自治体の動向を注視し、さらに研究していきたいと考えています。

区長への手紙
区施設にある「区長への手紙」専用用紙、封書、ファックス、Eメール等で受け付けて。区長が直接内容を見て。毎年発行の区民の声は、手紙の主なものを掲載。

問 広報いたばしは7月号から一部リニューアルすると聞いております。リニューアルの内容と、配布方法のさらなる工夫について重ねて伺いたします。

答 7月4月号から毎月1回、区の魅力を特集することに重点を置く、仮称「広報いたばし魅力特集版」をカラーで発行。シティープロモーション戦略のターゲットであります30歳から44歳の女性を目標としながら、すべての区民により親しみやすい広報誌としたいと考えています。7月号からは、新装を講読しておらずインターネットも利用できない方で、希望する方に対し、郵送により無料でお届けするサービスを開始してまいりたいと考えています。

広報いたばし
魅力特集版は、酒家版と数字デザインを駆使して(広報いたばしから広報ITABASHI)に。新装内容を絞って紙面を構成。月毎の区内施設やイベント等の魅力を発信するガイドバーとなっている。



本紙面の掲載の質問と回答は要旨をまとめたものとなっています。間中りんべいオフィシャルサイトに、さらに詳しい質問と回答を掲載しています。ぜひともご質問ください。ようこそ案内いたします。

<http://r-manaka.com/>

